

米軍相模補給廠のミサイル司令部とは 相模原市平和委員会作成 (2018.12.17)

米陸軍相模総合補給廠 ミサイル司令部



ミサイル部隊司令部施設 (相模総合補給廠)
2018. 10. 16から駐留開始



相模総合補給廠には、2011年8月、米軍再編で唯一、米ドル予算・約1700万ドル(約17億円)で「作戦(任務)指揮訓練センター」を建設(写真)。隣接して「訓練支援センター」も建設された。同センターは、太平洋岸の米本土北西部、アラスカ、韓国、ハワイ、その他の地域の部隊とリンクし、世界的規模で展開する陸軍・ランシシステムの28カ所の施設のネットワーク構成部分で、アジアでは最新の施設。

- 9月4日
米軍から新司令部発足について政府(防衛省)に申し入れ。
- 9月28日までに
日米協議、新司令部発足について合意確認。
- 9月28日
防衛省、相模原市へ通告
- ①部隊名称は「第38防空砲兵旅団司令部」
- ②人員は115人、相模補給廠へ
- ③10月16日から駐留を始める
- ④司令部はすでに日本配備の下位の防空部隊に対する指揮、統制、調整を行う
- ⑤現時点において装備品の追加予定はない(相模原市9/28発表)

「日本をまもる」は口実

左図は在日米軍の指揮を受けず、日本の防空とは無関係な部隊と装備を示している米軍の資料「Homeland Missile Defense Assets」(米本土ミサイル防衛装備)です。ここには車力・経ヶ岬のXバンドレーダー基地や横須賀のイージスミサイル艦が表記されている。



この他に近く、グアムの終末期高高度防空を担う「THAAD(サード)」・ミサイル防衛中隊「タスク・フォース・タロン」も指揮下に入る。

第38防空砲兵旅団司令部は何をするのか？

米軍資料より

- (1) インド・太平洋地域でのミサイル攻撃から米本土を防衛する。
- (2) 軍事作戦を指揮する作戦司令部の防御やアジア・太平洋地域に前進配備されている米軍戦力と装備をミサイル攻撃から守る。
- (3) ミサイル部隊の訓練や装備の準備、必要な部隊の派遣などが主要な任務。

アメリカのミサイル防衛の基本戦略

(米軍統合文書参考)

- ステップ1 ; 徹底した監視態勢と状況把握
(偵察・情報戦略)
- ステップ2 ; 「やられる前にやれ！」(先制攻撃戦略)
- ステップ3 ; 「打たれたら、打ち落とせ」目標追尾と迎撃態勢(目標検知・追尾・迎撃)
- ステップ4 ; 「即時報復」戦略

補給廠の指揮下に入る 下位の防空部隊とは？



ミサイル発射探知、追尾、迎撃用「AN/TOPY-2」
Xバンドレーダー

米陸軍第1防空砲兵連隊・第1大隊(嘉手納所屬)パトリオット地对空迎撃ミサイル(PAC-2)

